

# 2025 年度事業報告書

# 2025 年度 事業報告書

(2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日まで)

2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日までの期間において、一般社団法人日本分析機器工業会が実施した事業について、次のとおり報告致します。

## I. 会員の異動

2025 年度における入会は賛助会員 4 社、退会は正会員 2 社、賛助会員 3 社で、2025 年度末現在の会員総数は 163 社となった。(会員の異動については別紙 1 参照)

2025 年度末現在 会員数 163 社 (正会員 92 社、賛助会員 71 社)

## II. 総会、理事会等

### 1. 総会

一般社団法人日本分析機器工業会 2025 年度定時総会を次のとおり開催した。

(1) 開催日時 2025 年 6 月 12 日 (木) 13 時 40 分～14 時 30 分

(2) 開催場所 東京會館 7 階 ロイヤル  
東京都千代田区丸の内 3 丁目 2-1

(3) 出席会員 62 社 (議決権のある社員数 93 社)  
出席社員数 (委任状提出社員を含む) 42 社  
書面による議決権行使社員数 20 社

(4) 議長 会長 足立正之

(5) 承認された議案

第 1 号議案 2024 年度事業報告書および収支決算書 (案) の承認に関する件

第 2 号議案 任期満了に伴う役員改選に関する件

(6) 報告事項

2025 年度事業計画および収支予算に関する件

### 2. 理事会 (役員名簿: 別紙 2)

#### (1) 開催状況

第 1 回	2025 年 4 月 23 日 (水)	11 時 30 分～12 時 30 分
第 2 回	2025 年 6 月 12 日 (木)	12 時 30 分～13 時 30 分
第 3 回	2025 年 7 月 25 日 (金)	15 時 30 分～17 時 00 分
第 4 回	2025 年 10 月 3 日 (金)	16 時 00 分～17 時 00 分
第 5 回	2025 年 11 月 28 日 (金)	12 時 00 分～14 時 00 分
第 6 回	2026 年 1 月 16 日 (金)	15 時 30 分～16 時 30 分
第 7 回	2026 年 3 月 13 日 (金)	15 時 30 分～17 時 00 分
臨時理事会	2025 年 6 月 12 日 (木)	14 時 40 分～14 時 50 分

## (2) 主な決議事項

(第1回理事会)

- 議題1 2024年度事業報告書および収支決算書(案)承認の件
- 議題2 2025年度定時総会招集および定時総会議案書(案)承認の件
- 議題3 知的財産委員会副委員長交代に伴う選任の件
- 議題4 韓国 Kyungyon Exhibition Corp との展示に関する合意書締結の件

(第2回理事会)

- 議題1 広報委員会委員長交代に伴う選任の件
- 議題2 協賛名義使用承認依頼(初回)の件

(第3回理事会)

- 議題1 常設委員会副委員長選任の件
- 議題2 2025年度 JASIS 開催に関する覚書締結の件
- 議題3 JASIS2025 開催計画(JASISWebexpo2025 含む)の件

(第4回理事会)

- 議題1 賛助会員入会申込の件
- 議題2 常設委員会委員長・副委員長交代に伴う選任の件

(第5回理事会)

- 議題1 2026年代表者懇談会・新年賀詞交歓会開催の件

(第6回理事会)

- 議題1 2026年度工業会基本方針及び事業計画の重点についての件
- 議題2 協力企業との適正取引の推進に向けた行動計画改定の件
- 議題3 (株) AIST Solutions との連携および協力に関する協定書締結の件

(第7回理事会)

- 議題1 賛助会員入会申込の件
- 議題2 2026年度事業計画及び収支予算の件
- 議題3 韓国 Kyungyon Exhibition Corp との展示に関する合意書締結の件(継続)

(臨時理事会)

- 議題1 議長選任の件
- 議題2 会長、副会長及び専務理事選定の件
- 議題3 相談役専任の件

## 3. 2026年新年代表者懇談会

開催日時：2026年1月16日(金)16時40分-17時20分

開催場所：東京會館 7階 クインス

出席登録者：79名

開催次第：①新年挨拶 会長 足立 正之

②2025年度事業中間報告

工業会の現況 専務理事 吉田 秀人

委員会活動報告 企画戦略会議議長 金山 俊彦

## 4. 2026年 新年賀詞交歓会

開催日時：2026年1月16日（金）17時30分～19時00分

開催場所：東京會館 7階 ロイヤル

出席登録者：191名

開催次第：①開会挨拶 会長 足立 正之

②来賓挨拶 経済産業省大臣官房審議官 畑田 浩之

③来賓挨拶 文部科学省科学技術・学術政策局長 西條 正明

④乾杯 副会長 飯泉 謙

## III. 委員会活動

### 1. 企画戦略会議

#### (1) 企画戦略会議開催

①2025年度は、企画戦略会議を8回開催し、理事会に上程する議題の審議を実施した。また、企画戦略会議委員が分担して各常設委員会に参加し、委員会活動のモニタリングを行い、複数の委員会間で調整が必要な事項を企画戦略会議で審議し、調整を行った。

②正副委員長会議を開催し、各委員会が当初計画に沿った活動を行っていることを確認するとともに、各委員会事業の成果を取りまとめ、理事会、代表者懇談会等で定期的に報告した。

- ・2024年度事業の報告（2025年度第1回理事会 2025.4.23開催）

- ・第1回正副委員長会議開催 各委員会事業計画説明・意見交換実施（2025.10.30開催）

- ・第2回正副委員長会議開催 各委員会事業中間報告・意見交換実施（2026.3.26開催）

③常設委員会から提出された2026年度事業計画および収支予算（案）について調整し、第7回理事会に上程した。

#### (2) 展示会企画戦略小委員会

JASIS運営にあたり、企画戦略会議副議長およびJASISに関連する常設委員会委員長等で構成する小委員会を再設置し、概ね5年程度先のJASISの方向性を検討することとして、今年度以下の活動を実施した。

4月22日（JASIS グローバル化検討メンバー募集について・学生企画について）

5月20日（JASIS グローバル化検討メンバー募集進捗・生成AIのJASISにおける活用）

6月18日（生成AI レビュー・企画として捉えるテーマ、分野の選定プロセス、方法論・JASISのグローバル化検討WG）

7月16日（各社での分析機器とAIの活用について発表・セミナー企画の建付けを議論するメンバー選定・JASIS グローバル化検討WG進捗報告・2030年JASISの姿について個人発表）

8月19日（2030年JASISの姿について個人発表・JASISのグローバル化検討WG進捗報告）

10月14日（2030年JASISの姿について個人発表・JASISのグローバル化検討WG進捗報告・BCEIA、Analytica US展示会報告）

10月14日（2030年JASISの姿について個人発表・JASISのグローバル化検討WG進捗報告・BCEIA、AnalyticaUS展示会報告）

11月18日（2030年JASISの姿について個人発表・JASISのグローバル化検討WG進捗報告・各委員発表を踏まえた「2030年JASIS」全体討議

12月17日「2030年のJASIS」資料の確認・修正、展示会の5年後についてのフリーディスカッション

1月22日「2030年のJASIS」資料まとめ確認・修正、具体的なアクションプラン検討、JASISグローバル化検討WG進捗報告、標準化プラットフォームについての議論

2月25日「2030年のJASIS」資料まとめ確認・修正、具体的なアクションプラン検討、JASIS Streetの施策、未来の市場戦略検討

3月17日「2030年のJASIS」資料まとめレビュー、JASISグローバル化検討WG進捗報告、未来の市場戦略検討

### (3) 調達小委員会

①25年7月29日(火)議題 1.取適法(旧下請法)についての意見交換 2.各社調達に関する情報交換 (ハイブリッド開催)

②自主行動計画フォローアップ調査実施

④事務局において、適正取引推進に関する経済産業省・中小企業庁からの各種情報を随時会員にメールで周知し、JAIMA Webにて「協力企業との適正取引推進」のページを設け、「協力企業との適正取引の推進に向けた行動計画」、下請取引関係法令、中小企業施策等を紹介。

### (4) 外部向け講習事業の検討

分析機器ユーザ・機器分析初心者を対象とする規格普及・基礎講座他社会ニーズに応じたオンライン講習事業(有料の収益事業)の検討を行うとともに、以下のとおり、JISとして2024年5月に公示された「JIS K 0200 計測分析装置の共通データフォーマット」の講習会を試行的に一部有料で実施した。

#### ・計測分析装置の共通データフォーマット講習会開催実績

\*2025年度第1回 計測分析装置の分析データ共通フォーマット講習会(有料:10000円)

講師:産業技術総合研究所一村信吾先生(概論)、九州工業大学安永卓生先生(JIS K 0200 概要)

2025年9月29日(月) Web 開催

参加者:37名

\*2025年度第2回 MaiML 講習会 MaiML 活用事例紹介+Talk session

講師:株 AIST Solutions 中野 学 氏、産業技術総合研究所一村信吾先生

2025年12月18日(木) Web 開催

参加者:73名

\*2025年度第3回 計測分析機器共通データフォーマット MaiML の体験型ワークショップ

講師:日本電子株 大橋秀実 氏、九州工業大学 木場佑美 氏

2026年2月5日(木) Web 開催

参加者:103名

\*2025年度第4回 MaiML 活用事例紹介+TALK SESSION

講師:産総研 高橋 顕 氏、九州工業大学 安永 卓生 氏

2026年3月16日(月) Web 開催

参加者:77名

### (5) 設立65周年記念式典の実施

当工業会が2025年8月に設立65周年を迎えたことから、飯泉副会長を委員長とする設立65周年記念事業実行委員会を組織し、記念式典、記念講演、記念パーティーを6月12日(木)に開催した。

開催日・会場：2025年6月12日（木）、東京會館

記念式典・祝賀パーティー開催

優秀従業員表彰、感謝状贈呈（正副委員長）、永年勤続事務局職員表彰実施

記念講演開催（講演者：名古屋大学未来材料・システム研究所未来エレクトロニクス集積研究センターセンター長・教授 天野 浩先生）

## 2. 技術委員会

JASIS コラボレーション企画、海外とのグローバル技術交流、ラボ DX に関する会員支援のための技術調査、ライフサイエンス分野の技術交流、中高生向けの分析機器体験実習、大学生向けの講義、分析機器に関する体系的なドキュメント整備 等、への取組により、各会員企業の技術力向上、事業拡大に貢献することを目的として、次の事業を実施した。

### (1) JASIS コラボレーション企画

JASIS 2025 において、2 回目となる他団体主催講演会（JASIS コラボレーション）を企画した。以下、概要。

目的：関連団体のコミュニケーションハブとして、JASIS 展示会に新しい客層を呼び込むきっかけとする。

選定方針：JASIS 展示会の開催趣旨を理解していただき、我々の業界との協力関係を主体的に築きたいという意思のある団体から選定。

### 主催者団体とコンファレンス概要

団体名	タイトル	日程	来場者数	概要
マテリアル探索空間拡張プラットフォーム (MEEP)	MEEP 公開シンポジウム	9月3日 午前	110	材料探索を自動化・自律化で加速する方法の研究最前線の報告。薄板材料の合成-計測-解析-合成条件の最適化ループを自律的に回すことで、開発効率が1000倍になることを実証するプロジェクト
日本定量NMR 研究会	定量分析の未来を変える—— qNMR による新たな国際標準の最前線	9月3日 午後	155	2019年にISO規格として発行された検量線不要で、NMRを用いて有機物の定量分析を行う手法（qNMR法）現状と今後、医薬品業界での利用実態を紹介。
文部科学省 マテリアル先端リサーチインフラ	データ駆動型マテリアル研究の革新：ARIM設備・データ共有が切り開く未来	9月4日 午前	118	文科省ARIM事業（設備共用事業）で集積されつつある膨大な実験データの共有という新しい試みの仕組みと狙いを紹介。データ駆動型サイエンスへの道を示す。
奈良先端大学院大学データ駆動型サイエンス創造センター	奈良先端大が先導する研究DXへの挑戦：電子ラボノートによる研究加速の実践と展望	9月4日 午後	139	オープンソースの電子ラボノート(eLabFTW)の運用を軸とした研究DX推進の考え方と実践を紹介。国内初のeLabFTWの組織運用を推進。
AOAC INTERNATIONAL JAPAN SECTION	AOAC INTERNATIONALにおける分析法開発と国際標準化の取り組み	9月5日 午前	69	AOACが進める公定分析法（OMA）の更新と拡大に関する最新動向の報告。ビタミンやスパイス・ハーブ中の残留農薬など、既存の分析法が古かったり未整備であったりする分野での開発状況を解説。
日本分析化学会 分析イノベーション交流会	交流の輪を広げる分析イノベーションフォーラム2025	9月5日 午後	43	ロボティクスによる身体拡張と大学発ディープテックベンチャーに関する基調講演後、出展企業9社と来場者が課題解決や製品開発に向け活発に議論し、新たな価値創造の機会とした。

### (2) 海外とのグローバル技術交流 [RSC-JAIMA Symposium on Analytical Chemistry 2025]

JAIMA と英国王立化学会(Royal Society of Chemistry, 略称 RSC, 英国)との連携イベントであ

り、日本分析化学会と JAIMA 技術委員会にて実行委員会を結成して企画・運営している。

日時：2025 年 9 月 4 日-5 日

場所：幕張メッセ国際会議場 2F 国際会議室

テーマ：「Analyst 150 Years Anniversary」RSC の論文誌 (Analyst) 創刊 150 周年を記念して、歴代の基調講演者の招待講演を実施。

参加者：合計 189 名

ポスターセッション：95 名発表（日本人 53 名、外国人 42 名）

JASIS ツアー：海外からの参加者（14 名）に対し展示会ブースツアーを実施。

### (3) 技術調査

#### ①JAIMA 外団体・組織との情報・意見交換

JACI(新化学技術推進協会)MI 推進 WG との協議を継続。ラボ機器の接続規格である LADS OPC-UA の勉強会を実施。

#### ②トピックスセミナーで 3 講演を企画・実施

#### ③JASIS スクエア で LabDX ゾーンを企画

「出展社 8 社+JAIMA」28 小間の展示を実施。LabDX ゾーン開始から 4 年を経て、ユーザの課題解決につながる実用的なデモが格段に増加（JAIMA ブース来場者 242 名）。

#### ④三菱ケミカルグループ R&D 変革本部との協業

- ・「ラボラトリ高効率自動化システム」の実現と普及を目的として、LADS を基本とした分析・計測機器の通信・相互運用規格の適用および最適化、並びに普及に関する活動を継続。
- ・自動フロー合成装置を題材に LADS OPC UA の概念実証 (PoC) を継続実施。
- ・合成までのプロセスを Phase 1 として 2025 年 8 月末までにデザイン/実装/稼働確認を終了。
- ・JASIS2025 JASIS スクエア LabDX ゾーンにて展示、有用性を説明。
- ・2025 年 10 月より分析機器のあつまる後半プロセス (Phase 2) へ。

### (4) 技術普及

#### ①分析機器の手引改訂

- ・“分析機器の手引き “を丸善出版より発行（2026 年 1 月 28 日）。
- ・“分析機器の手引き “をベースに、早稲田大学との共同監修の下、分析機器の原理と使用方法に関する教育用動画を作成し、丸善出版より販売（4 機種 2025 年 6 月 26 日）。

#### ②JAIMA サマーサイエンススクール実施

- ・開催日：2025 年 7 月 23 日(水) 12:10~17:30
- ・参加生徒数：17 校、66 名（男子 44 名、女子 22 名）
- ・協力企業数は 16 社、使用装置数 23 台（以下、表参照）
- ・開催場所：日本科学未来館

協力企業数、使用装置数一覧

16社	21グループ + 一般来場者向け2グループ
アジレント・テクノロジー(株)	①フーリエ変換赤外分光光度計、②全自動電気泳動システム
大塚電子(株)	①粒子径装置、②膜厚計
オーソ・クリニカル・ダイアグノスティクス(株)	輸血検査用遠心装置
京都電子工業(株)	粘度計①②
ジーエルサイエンス(株)	ガスクロマトグラフと固相抽出装置一式(前処理用カラム等)
(株)島津製作所	レーザー顕微鏡
DKSH マーケットエクспанションサービスジャパン(株)	リアルタイムPCRとラテラルフローリーダー
東亜ディーケーケー(株)	イオンクロマトグラフ
日東精工アナリテック(株)	自動滴定装置
日本電子(株)	①電子顕微鏡、②蛍光X線分析装置
日本分光(株)	紫外可視分光光度計①②
(株)日立ハイテック	電子顕微鏡
(株)日立ハイテックアナリシス	ハンドヘルド蛍光X線分析装置
(株)堀場製作所	蛍光吸光分光装置
(株)堀場アドバンスドテクノ	コンパクト水質計
(株)リガク	単結晶構造解析装置、[一般向け:①ラマン分光、②蛍光X線分析]

### ③『早稲田大学講座 素材機器分析評価』実施

- ・設置機関：早稲田大学大学院創造理工学研究科
- ・履修学生人数：春学期（66名）、秋学期（60名）。（授業回数 28回）
- ・講義方式：対面講義をオンラインで配信するハイブリッド方式。

### ④早稲田大学の学生技術研修プログラム認定制度への協力

- ・包括協定書に基づいてこれまでの活動を評価し、2年間の延長を決定。  
2年間で5名の学生技術研修プログラム認定者が生まれた。

### ⑤日本分析化学会における先端分析技術賞（JAIMA 機器開発賞）贈呈

- ・「二次イオン質量分析および機械学習を用いた生体試料の組成イメージング」  
(株)東レリサーチセンター・主任研究員 松田 和大
- ・「多品目の薬物血中濃度を迅速簡便に定量するための医療従事者用 HPLC システムの製品開発と実用化」 (株)日立ハイテックアナリシス部長代 理森川 悟 他6名

### (5) ライフサイエンス小委員会活動

- ・ JASIS 2025 トピックスセミナーにて生物工学会から発表  
「生物工学における DX 推進に向けた技術革新」
- ・ 生物工学会 年会 2025(9月10日～12日)にて協働ピッチイベントを実施
- ・ Pittcon 2026(2026年3月7日～11日、サンアントニオ)にて JAIMA Symposium を実施  
「日本発の最先端分析機器技術」の内容で実施。

### (6) 他

#### ① (株) 東レリサーチセンター見学会と意見交換会

日程：2025年5月28日（水）15:00-19:00

場所：株式会社東レリサーチセンター滋賀事業所

目的：JAIMA 技術委員会が(株)東レリサーチセンターを訪問し、最新設備・機器の見学会および意見交換会を実施した。

#### ②政策提言検討会

目的：第 7 期科学技術・イノベーション基本計画に向け、文科省政策（主に大学の設備共用政策、研究開発政策）への要望、提言事項を議論・論点整理を行い、次年度政策への提言を策定。

開催：6 月 16 日（月）10 時－12 時

開催場所：JAIMA 会議室

2025 年 8 月 12 日に「イノベーション促進型調達制度」導入、「アーリーアダプター」の戦略的支援などに関する提言を文科省に提出。新規施策である先端研究基盤刷新事業（EPOCH）に結実。

### 3. 環境委員会

分析技術・機器に関する国内外の製品環境規制等への的確な業界対応を目的として、次の事業を実施した。

#### (1) 環境規制に関する情報収集

##### ① 最新情報の共有

環境委員会を毎月第 3 木曜日に開催し、最新情報を共有した。

技術検討分科会を毎月第 1 木曜日に開催し、規制内容の精査、意見出しの方針等について委員会に先立って検討をおこなった。

##### ② 会員の困りごとの FAQ 化

様々なテーマについて委員同士で検討した。

- ・ UK-POPs の解釈について
- ・ ベトナム RoHS について
- ・ アメリカ PFAS レポート規則について
- ・ 化審法（ストックホルム条約）の規制物質含有製品の引取修理について
- ・ SDS 危険性・有害性情報通知義務
- ・ REACH Annex XVII PFAS 修正案の除外について
- ・ 米国 TSCA PBT5 物質の解釈について
- ・ RoHS 技術文書とスペアパーツ適用除外について
- ・ RoHS 除外規定 III-6(a)-II の解釈について

##### ③ 医療・計測・分析・制御機器関連工業会連絡会（呼称：カテゴリ 8 & 9 連絡会）に参加 環境規制に関する情報を収集し環境委員会に共有した。

開催日：第 1 回 5 月 22 日、第 2 回 8 月 19 日、第 3 回 11 月 11 日、第 4 回 2 月 9 日

委員会活動内容：

ストックホルム条約 POPRC21 のサイドイベント参加

MCCP の使用状況調査

化審法における MCCP エssenシャルユース申請

韓国 RoHS TF 活動報告

欧州 REACH 芳香族臭素系難燃剤の用途情報収集、PFAS 規制案のパブコメ対応

欧州 RoHS 指令 除外規定見直し Pack22 への意見出し

JBCE より欧州動向報告等について情報を入手し、委員会に展開。

REACH 動向、RoHS 動向、エコデザイン規則、電池規則

カテゴリ 8 & 9 連絡会参加団体 :

JEMIMA, JIMA, JMIF 計工連, JMC 日機輸, JEMA, SEAJ, JFMDA 医機連, NECA, 産業用ガス検知警報器工業会, JAIMA

## (2) 環境規制へのロビー活動

### ① 規制当局・コンサルタントへの答申、公開意見募集等への対応

意見書へのエンドース実施

- ・スイス 化学物質リスク低減政令(ORRChem) デクロランプラス(DP)および UV-328 を含む複数の POPs に関する規制案の公開意見募集
- ・カナダ カナダ環境保護法(CEPA) MCCP のみならず LCCP も対象にした情報収集の公開意見募集
- ・欧州 代替センター 有害物質の代替の取組み/組織の特定、利害関係者の活動把握についての公開意見募集
- ・オーストラリア 工業用化学物質環境管理基準(ICHEMS) DBDPE 規制化の公開意見募集
- ・カナダ 「PFAS リスク管理アプローチ提案」についての公開意見募集
- ・韓国版 RoHS でカテ 89 製品を対象に加える改正への意見書
- ・米国ミネソタ州 PFAS 報告要求規制案への意見書
- ・英国 PFAS 規制の公開意見募集
- ・ブラジル RoHS 規制案の WTO/TBT 通報への意見
- ・欧州 RoHS 指令 Pack22 関連の除外用途の延長申請 (計 6 種類)
- ・欧州 次の POPs 条約への廃絶候補 TBPH への意見募集
- ・サウジアラビア版 RoHS の改正案 WTO/TBT 通報への意見
- ・欧州 RoHS 含むオムニバス法案への意見
- ・欧州 SCIP データベース廃止のオムニバス法案への意見
- ・欧州 RoHS 指令 Pack22 法案への Objection 対応
- ・韓国 韓国版 RoHS の有害物質規制から除外する告示案への公開意見募集
- ・ベトナム 化学品法実施規則案への公開意見募集
- ・米国 TSCA PFAS 報告規則 輸入成形品の対象外案への公開意見募集

### ② POPs 条約 残留性有機汚染物質検討委員会 (POPRC21)

9/29～10/3 ローマで開催

カテ 8&9 連絡会が 9/30 にサイドイベントを開催し、各国代表約 60 名にプレゼンした。

- ・開催趣旨および内容概要説明
- ・chemSHERPA 概要説明
- ・難燃剤の働きとケーブルにおける代替
- ・カテ 8&9 製品製造者の chemSHERPA 収集と難燃剤代替

JAIMA からは三枝副委員長がカテ 8&9 製品の特長についてリモート参加で説明した。

### ③ 英国 ビジネス・通商省 (DBT) との面談

10/2 大阪にて、JEMIMA, JAIMA (三枝副委員長), JBCE メンバーが参加した。

- ・EU の機械指令から機械規則移行に伴う UK の対応

- ・ UK アプローチについて
- ・ EU Cyber Resilience Act の UK 対応
- ・ RoHS における EU と UK とのギャップ
- ・ デジタル化の取組み

#### ④ BSEF（国際臭素協議会）・カテゴリ 8 & 9 連絡会 意見交換会

2025/12/5 に BSEF 会長、事務局長、BSEF 日本代表の方々（通訳含め 6 名）とカテゴリ 8&9 連絡会（現地参加 4 名+Web 参加）との間の意見交換会に参加した。JAIMA からは中上委員が現地参加、酒井委員・寺倉が Web 参加。

- ・ カテ 8&9 連絡会の紹介
- ・ POPRC21 サイドイベントでの難燃剤の資料説明
- ・ BSEF の紹介
- ・ 臭素系ダイオキシン類の意見交換
- ・ 臭素系難燃剤の最新動向

#### ⑤ 欧州の関係団体・官庁との直接対話

JBCE/JEMIMA/JAIMA が共同で毎年実施。

- ・ ECHA（欧州化学品庁）：RoHS の制限物質追加、除外改定の評価主管が今後 ECHA に移る。カテ 8&9 業界への配慮を求める。直近の除外改定の意見交換。
- ・ DG ENV(環境総局)：RoHS 担当官が交代。カテ 8&9 業界への配慮を求める。除外改定の意見交換
- ・ 英国 DEFRA(環境食糧農村地域省)・GAMBICA(計測測定ラボ機器工業会)・BIVDA(英国体外診断協会)：UK の RoHS 法について意見交換
- ・ Med Tech Europe、Applia、Lighting Europe、EPPA：環境規制の対応状況について意見交換

### (3) 会員企業への環境規制・標準化関連の情報提供

#### ① カテゴリ 8&9 連絡会の環境セミナーの共同開催

日時：2026 年 2 月 10 日

テーマ： 化学物質管理の国際的な取組と日本の対応 経産省  
 PFAS 規制の最新動向 日本フルオロケミカルプロダクト協議会(FCJ)  
 中国 RoHS 規制の最新動向 エンヴィックス  
 最近の化学物質管理と電線の関わり 電線総合技術センター(JECTEC)  
 欧州の製品環境規制最新動向 在欧日系ビジネス協議会(JBCE)  
 パネルディスカッション JAIMA からも登壇  
 化学物質対応の困りごと ～サプライチェーン対応を中心に～

#### ② 6 月委員会と 12 月委員会を標準化委員会と合同開催

標準化委員会と環境委員会を同日相互開催し質問、意見交換を実施。経済産業省、CERI(化学物質評価研究機構)、JECTEC(電線総合技術センター)などの外部有識者も参加。

- ・RoHS 指令、POPs 条約等の動向。新規規制物質の情報。
- ・標準化活動の状況。JAIMA 規格の見直し活動。
- ・委員向け講演
  - 6月「なぜ、経営戦略上「標準化」が重要なのか」
  - 12月「PFAS 対策の現状と課題」

#### (4) JASIS 企画への参画

##### ① <JASIS 2025>

- ・JASIS トピックスセミナー：「世界に広がる製品含有化学物質規制／環境規制の最新動向」をテーマに、3つの講演実施。
  - 化学物質管理の国際的な取組と日本の対応 経済産業省
  - PFAS 規制化最新動向 FCJ（日本フルオロケミカルプロダクト協議会）
  - 欧州の化学物質規制および循環経済政策の最新動向 JBCE（在欧日系ビジネス協議会）
- ・JASIS School：「製品含有化学物質規制対応のための社内管理のい・ろ・は」2025 版

##### ② <JASIS 2026 準備>

- ・JASIS 2026 トピックスセミナーで環境規制の講演を企画中。
- ・JASIS 2026 JASIS School で初心者向け環境規制セミナーを企画中。

## 4. 標準化委員会

分析技術・機器に関するビジネス戦略志向の標準化活動の推進により分析機器産業の競争力強化や産業発展を図ることを目的として次の事業を実施した。

### (1) 産業標準化に関する情報の収集及び提供

#### ①標準化情報共有

- ・定例委員会を開催し、委員会活動状況及び標準化に関する情報共有を行った。（2025年4月15日、5月14日、6月19日\*、7月15日、8月21日、9月16日、10月16日、11月13日、12月18日\*、2025年2月19日；計10回、\*6月と12月は環境委員会との合同委員会）

#### ②JAIMA 標準化セミナー

- ・JASIS トピックスセミナーの日本薬局方セミナー開催を支援した。

### (2) ビジネス戦略志向の標準化活動の推進企画立案・実行、会員の支援

#### 1) 新規ISO規格提案活動

##### ①「計測分析装置の共通データフォーマット」に関する国際標準化

〔経済産業省予算：国際ルール形成・市場創造型標準化推進事業費戦略的国際標準化加速事業，産業基盤分野に係る国際標準開発活動〕

- ・昨年に引き続き共通データフォーマットの理解、エキスパート候補の探索を目的としたラウンドロビン試験（RRT）を合計で3回実施した。来年、ISO/TC201/SC3（Data Management and Treatment）総会で新規業務項目提案（NP 提案）を行う。

##### ②「異なる顕微測定装置間における同一箇所分析のための位置合わせ手順」に関する国際標準化

〔経済産業省予算：国際ルール形成・市場創造型標準化推進事業費戦略的国際標準化加速事業，産

業基盤分野に係る国際標準開発活動]

- ・事業計画の最終年度にあたり、NP 提案の賛成票およびエキスパート確保のロビー活動を行い、ISO/TC 201/SC2 (General Procedure) 総会で提案した。投票の結果採択され、来年から国際規格の作成にとりかかる。

### ③ JIS K0200 「計測分析装置の分析データ共通フォーマット」の普及啓発活動

- ・国際標準化と並行して、共通データフォーマット (MaiML) の国内普及及び活用促進を目的とした講習会 (Web 開催) を 4 回実施した。

## 2) 会員企業の提案等による日本規格協会 (JSA) 公募提案事業

### JIS K0121 「原子吸光分析通則」の JIS 原案作成事業 (改正)

- ・2025 年度区分 A に応募し採択された事業で、合計で 3 回委員会開催し、11 月に JSA に成果物を提出して一旦活動を終了した。

## (3) 分析関連規格・国際標準等の普及 (維持・改正)

### JIS 規格の発行

- ・2024 年度に活動を行った下記 2 つの JIS 規格が、2025 年 12 月の第 51 回 JISC 化学・環境技術専門委員会において審議された。審議の結果、3 月の発行が決定した (3 月 23 日発行予定)。
  - a) JIS K0124 : 2026 「高速液体クロマトグラフィー通則」
  - b) JIS K0139 : 2026 「レーザーアブレーション誘導結合プラズマ質量分析法及び誘導結合プラズマ発光分光分析法通則」

## (4) ISO/IEC 国内審議委員会、他団体 JIS 原案作成委員会等への委員派遣

### ① JIS 原案作成委員会

- ・2026 年 3 月現在、下記 3 委員会に委員を派遣している。JIS K 0170 流れ分析法による水質試験方法は 2025 年に活動を終了した。
  - ✓ JIS K 0102-3 工業用水・工場排水試験方法改正検討分科会
  - ✓ JIS K0450-70-10 改正・PFAS 測定に関する JIS 開発
  - ✓ データ認証システムに関する標準化調査委員会

### ② ISO/IEC 国内審議委員会委員

- ・2026 年 3 月現在、下記の 12 委員会に委員を派遣している。
  - a) ISO/TC45 国内審議委員会 / 日本ゴム工業会・化学試験方法分科会
  - b) ISO/TC47 国内対応委員会 / 日化協技術委員会・化学標準化 WG
  - c) ISO/TC61/SC5 国内対応委員会
  - d) ISO/TC61/SC14 国内対応委員会
  - e) ISO/TC146 国内対応委員
  - f) ISO/TC146/SC6 国内対応委員会
  - g) ISO/TC147 国内対応委員
  - h) ISO/TC147/SC2/JWG1 国内対応委員
  - i) ISO/TC147/SC85 包括的計測手法国際標準化研究会
  - j) ISO/TC298 国内対応委員会
  - k) ISO/TC345 国内対応委員会
  - l) IEC/TC111/WG3・JWG14 国内対応 PG

### ③ 日本薬局方原案検討委員会

・ 理化学試験法委員会、物性試験法委員会、及び天秤 WG に委員を派遣している（継続）。

### ④ 下水試験方法改訂調査専門委員会 水質・汚泥試験小委員会（継続派遣）

### ⑤ 日本産業標準調査会 化学・環境技術専門委員会（継続派遣）

### ⑥ JSA 産業標準作成委員会（継続派遣）

## (5) 計量法審議に関する協力

- ・ 今年度から国際計量研究連絡委員会／物質量標準分科会に委員を新規派遣している。
- ・ 経済産業省計量行政審議会計量標準部会（継続派遣）
- ・ 国際法定計量調査研究委員会 環境・分析計量器作業委員会（継続派遣）
- ・ 標準物質認証委員会（継続派遣）。

## 5. 労務委員会

労働法制の改正、働き方改革や、物価上昇に伴う賃上げ要請への対応など工業会会員が共通に直面する人事・労務の課題に対応することを目的として、(1)主要労働条件に関する調査・研究、(2)会員企業等の労務・人事担当者に対する講演会（セミナー）の開催、(3)トピックス的信息交換、(4)異業種交流会を実施した。

### (1) 主要労働条件に関する調査・研究

合計 6 回の労務委員会をオンラインと対面のハイブリットで開催し、人事・賃金制度、労働時間制度、定年退職・定年後再雇用等主要労働条件に関する調査や対応等について情報交換を実施した。

#### ○第 1 回労務委員会（2025.5.16）

- ① 交代委員の紹介
- ② 春季賃金改定・賞与の状況報告
- ③ 年間スケジュールの確認

#### ○第 2 回労務委員会（2025.7.25）

- ④ JASIS における教育プログラムについて
- ⑤ 今年度事業計画について
- ⑥ 人事労務問題について
  - ・ 新卒初任給について
  - ・ 業務中の熱中症対策について
  - ・ 役員就任時の退職の取扱い
  - ・ 改正育児介護休業法対応について

#### ○第 3 回労務委員会（2025.9.4）

- ⑦ JASIS における教育プログラム実施報告
- ⑧ 異業種交流会・人事労務セミナーについて

#### ○第 4 回労務委員会（2025.11.12）

- ⑨ 異業種交流会実施準備
- ⑩ 人事労務セミナー開催準備

- ⑪ 人事労務問題について
  - ・フィールドサービスエンジニア希望者向けのインターンシップメニューについて
  - ・改正育児介護休業法対応について
  - ・年末調整における収入超過者への対応について
- 第5回労務委員会（2026.1.23）
  - ⑫ 人事労務セミナーの振り返り
  - ⑬ 異業種交流会実施準備
  - ⑭ 冬季賞与の状況報告
  - ⑮ 人事労務問題について
    - ・地域限定特別手当について（寒冷地手当、除雪手当、首都圏特別手当 etc.）について
    - ・ビジネスカジュアルの運用について
- 第6回労務委員会（2026.3.18）
  - ⑯ 来年度の実施計画と委員会開催日程
  - ⑰ JASISにおける学生誘致検討についての意見交換

## (2) 会員企業等の労務・人事担当者に対する講演会（セミナー）の開催

JAIMA 会員企業の人事労務担当者を中心に、その他幅広く参加を募り、講演会（セミナー）を実施した。参加者 30 名であった。

日 時：2026 年 1 月 23 日(金)14：00 ～15：00

場 所：オンライン開催

演 題：DX 社労士が解説！人事労務担当者のための AI 活用入門

講 師：ホワイトドア社会保険労務士事務所 田邊良学 様

参加者：JAIMA 会員企業の人事労務担当者およびその他の従業員

講演内容：

- ① なぜ今、人事に AI が必要なのか
- ② AI の仕組みや特徴について
- ③ HR テックについて
- ④ 具体的な AI 活用事例
- ⑤ AI 活用時の注意事項
- ⑥ まずは試行錯誤してみること
- ⑦ これからの人事に求められる役割

## (3) トピックス的信息交換実施

人事・労務管理上での日常的・緊急的課題に関し、随時、メールで労務委員間の情報交換、意見交換を行なった。

- ① 経験者採用・人事制度等の状況について

## (4) 異業種交流会

近年、多様な働き方を実現するための制度づくりは、多くの企業にとって重要な経営課題として位置づけられている。オタフクホールディングス株式会社においても、地域限定制度をはじめとする人事制度改革を積極的に進めてきた。同社では、社員の声を制度改善の出発点とし、その取り

組みが社員の定着や活躍へとつながる仕組みづくりに結実している。

今回は、こうした人事制度改革の考え方や具体的な取り組みについてお話を伺った。

目的：「地域限定制度」を中心に「おたふくエンゼルプラン」など女性活躍、人的資本経営的な取り組みなどの情報収集、意見交換

日程：2026年1月30日（金）

参加者：8名

訪問先：執行役員人事部長 川岸浩司 様

人事部人事課長 双和寛子 様

## 6. 知的財産委員会

分析機器に関する知的財産権の管理推進を目的とする会員企業への情報提供、会員企業間での情報交換を推進することを目的として、次の調査活動及び情報交換を実施した。

### (1) 分析機器に関する知的財産権関連情報交換

#### ①知的財産委員会（本委員会）

知的財産委員会（本委員会）を5回開催し、会員企業間の有用な知財関連情報の交換を実施。

- 1) 第1回知財委員会：年間の活動計画を策定
- 2) 第2回知財委員会：九大 OIP 株式会社との意見交換会を実施
- 3) 第3回知財委員会：トヨタ自動車株式会社との意見交換会を実施
- 4) 第4回知財委員会：特許庁との意見交換会を実施
- 5) 第5回知財委員会：本年度の振り返り、小委員会（特許・商標）の報告会を実施

#### ②小委員会活動

実務調査小委員会、商標小委員会を設置し、特許に加えて商標の調査・研究活動を行った。

- 1) 実務調査小委員会では、全10回の会合を開催し、知財業務へのAI活用について、知財実務に直結する研究を行い、第5回知的財産委員会でその成果を発表した。なお、特許庁の審査官の方が第8回、9回、10回の会合にオブザーバーとして参加いただいた。
- 2) 商標小委員会では、全4回の会合を開催し、商標実務に関して各社業務課題の共有、商標調査へのAI活用、中国における商標審査の厳格化の傾向、商品区分第9類問題などのテーマで情報・意見交換を行い、株式会社ジェイテクトでの商標ブランディングに関する取り組みの紹介と意見交換会を実施した。また、第5回知的財産委員会でその成果を発表した。

### (2) 知的財産権に係る行政機関（特許庁）との交流・情報交換

特許庁審査官等を招き、行政と会員企業間の交流・情報交換を実施した。昨年度に引き続き、対面およびWeb参加を併用したハイブリッド開催により、特許庁側21名（特許、審判、意匠、商標）、委員会側19名が参加して実施した。特許庁の施策・取組や、特許、商標、意匠の審査実務に関して、活発な意見交換がなされた。（第4回知的財産委員会）

### (3) 知的財産権に関する意見交換会の開催

#### ①九大 OIP 株式会社との意見交換会

大学における知財活用について参加企業の見識を深めるべく、九大 OIP 株式会社を訪問し、外国出願戦略や特許ライセンスに対する考え方、標準化活動／オープンクローズ戦略立案など、実務的な議論・意見交換を実施した。(第2回知的財産委員会)

## ②トヨタ自動車株式会社との意見交換会を実施

マルチパスウェイ戦略のもとで構築された知財ポートフォリオを活用し、ビジネスの継続性を確保しつつ、環境技術や安全技術の普及を通じて社会に貢献などの活動を紹介いただき、意見交換を実施した。(第3回知的財産委員会)

## 7. 国際委員会

JAIMA および JASIS のグローバル化を推進し、JAIMA ブランドの向上を推進することを目的として、次の事業を実施した。

### (1) 海外ビジネスにつながる優良なネットワークの構築と活動推進

中国、韓国、東南アジア、インド、欧州、米国の各エリアにおいて以下の①～③の活動を実施。

①各エリアでビジネスや市場情報収集で影響力のある海外展示会、海外 MOU 締結団体及び主要な大学や研究機関、学会等と ASIS をベースにした海外ビジネス機会の創出と技術交流の促進。

- ・ MRS Material Research Society (米国)
- ・ JST さくらサイエンス推進本部、アジア・太平洋総合研究センター
- ・ 東京大学、京都大学、チュラロンコン大学、ベトナム国家大学、MJIT マレーシア日本国際工科院、インド工科大学等
- ・ 台湾 ITRI 工業技術研究院、タイ NSTDA 国立開発技術庁、清華大学サイエンスパーク等

②各国主要研究機関、学会、大学、行政機関との共同セミナー開催 (各国在日大使館活用含む)

- ・ JST 日印大学等フォーラム (11月)
- ・ タイ ナノテクノロジーとカーボンシンポジウム (1月)

③JASIS のグローバル化を中期的に考えるワークショップ立上げ

- ・ JASIS のグローバル化を 2030 年までの中長期で考えるワークショップを JAIMA 会員企業から横断的に立上げ。ベテランと若手が混じって、これまでの実績、経験と、新しいテクノロジーとマーケティング手法を取り入れた案を作成中。

### (2) 新たな社会の動きや課題へ対応した活動の強化

・ AI の急速な発展、カーボンニュートラルへの取組みの加速、市場拡大する先端材料・半導体市場、スタートアップ企業の台頭等の新たな社会の動きや課題に対応する JASIS の付加価値向上による海外からの注目度向上を図るため、先端材料(半導体+電池)を対象に JASIS でのセミナーと、初めての試みとして来場者との交流案として、展示会場でのパネルディスカッションを実施。

- ・ 2025MRS 会長 Eric A Starch 先生 (ペンシルバニア大学) リチウムイオン電池
- ・ 台湾 ITRI 工業技術院 Alex Lo 先生 半導体計測と社会実装
- ・ 熊本大学 青柳昌弘先生 半導体先端技術の実装

### (3) 輸出管理に関する情報収集と啓発活動

①小委員会開催により情報交換・情報収集と会員に対する啓発活動を実施 (小委員会 4 回開催)

- ②現行法令や改正法令案に対して必要に応じて意見応募等を実施
- ③輸出管理、安全保障貿易管理に関する会員向けセミナー開催

#### (4) 中堅若手人材育成ワークショップ開催運営（技術委員会と共同）

2025年10月から第5期を開催中。17社31名が参加。

- ・ 東京大学 一杉太郎先生 AIが仕事に与えるインパクト、分析機器企業の在り方
- ・ 東京理科大学 平塚三好先生 ビジネスに貢献する知的財産入門
- ・ 東京大学 鈴木一人先生 地経学と経済安全保障
- ・ 東京大学・チュラロンコン大学 神馬征峰先生 実践知活用のための、ポジデビ・アプローチ
- ・ 東京大学 矢谷浩司先生 Human-AI Interaction: 人と協調するAI設計

以上実施済、以下26年3月から順次実施

- ・ 立命館大学 荒木努先生 化合物半導体
- ・ JAIMA 岩瀬壽 バイオ市場と理化学機器ビジネス
- ・ 日本電子 大井泉社長 経営者から若手へのエール
- ・ 成果報告会・修了証授与式 7月24日(金)

## 8. 医療機器委員会

### (1) 医療機器関連他団体との連携

#### ①一般社団法人日本医療機器産業連合会（医機連）各種委員会および関連WG活動

- ・ 医機連の各種委員会および関連WG活動に参画し、会員会社に情報・資料を配布した（5回）。また、適時、会員の意見を収集し関連委員会に報告。
- ・ 医機連 適正広告の解釈に係るWGの体制強化として、SMBG企業からのメンバ参画開始(1名)
- ・ 医療機器の耐用期間に関する自主基準の改定WG発足（6名）。
- ・ 医療機器基本情報DB検討WGに参画開始(1名)。

#### ②一般社団法人日本臨床検査薬協会（臨薬協）とのIVD-MD会議開催等

- ・ 臨薬協とのIVD-MD連絡会議は、休会決定後、本年度は新規議題なし。IVD地位向上WGを開催（4回）し、施策を審議。
- ・ IVD-MD地位向上WGの活動として、メディア向け勉強会「医療DX×AI：臨床検査が拓く医療の最前線」を9/16に実施、記者8名が参加。また、メディア向け勉強会「知っておきたい百日咳：診断・検査・予防・治療から耐性百日咳の流行」を1/6から動画配信開始。

#### ③3団体動物関連委員会合同会議開催等

- ・ 臨薬協および一般社団法人日本画像医療システム工業会（JIRA）との3団体動物関連委員会合同会議を開催（6回）し連携強化を図った。
- ・ 2025年度 動物用医療機器・体外診断用医薬品に関する医薬品医療機器等法講習会(Webオンデマンド配信)を実施済(12月)、167名参加。

### (2) 臨床検査の標準化

### ①装置コード表改訂

- ・公益社団法人日本医師会、一般社団法人日本臨床衛生検査技師会等が実施する全国レベルの外部精度管理調査事業を支援する装置コード表 web システムを運営して、2025 年春、冬の改訂を実施し、JAIMA の HP に公開した。
- ・装置コード表 web システムのセキュリティ強化対策完了、適用済。

### ②国内標準化活動

体外診断機器の分野での国際整合（JIS 化）に貢献するため、海外規格に関する国際会議への参加等による最新の情報入手及び会員への情報提供を行った。

- ・安全・EMC 規格小委員会を開催。（2 回）
- ・IEC61010-1 の AMD2 の CDV が投票の結果承認され、FDIS に進むことが決定。
- ・IEC61326-2-6:2025 の JIS 化：委員会で申請資料を作成し提出した。2026 年 7 月～2027 年 2 月までに活動し、2027 年 3 月に完成目標。

### (3) 国際活動

- ・国際小委員会を開催し、国際政策・アジア WG 等の情報を提供した。（6 回）
- ・GHWP 年次総会（バンコク）に参加し、法規制関連の最新動向に関する情報収集等を実施、医療機器国際小委員会にて情報共有を行った。
- ・ISO/TC212（臨床検査と体外診断検査システム）/WG3 の国内検討委員会に JCCLS を通じて委員 2 名を派遣し、9 月に開催された ISO/TC212 年次総会（同期間で行われた WG3 の全体会議を含む）、および 1 月に開催された Web 会議に参加、ISO の開発や改訂についての最新情報を会員に提供した。
- ・ISO/TC212（臨床検査と体外診断検査システム）/WG2 の国内検討委員会に JCCLS を通じて委員 1 名を派遣し、1 月に行われたグローバル会議(WEB)に参加、ISO の改訂についての最新情報を会員に提供した。
- ・ISO/TC210（医療機器の品質マネジメントシステム）の国内検討委員会、国際規格推進委員会に委員 1 名を派遣、最新情報を会員に提供した。
- ・欧州の IVD 規制情報を得るため、5 月と 10 月に開催された GDA(Global Diagnostics Alliance) 会議にオンライン参加、最新情報を会員に提供した。
- ・IMDRF 国際医療機器規制当局フォーラムに 1 名参加した（9 月）。

### (4) 公正取引の徹底

- ・分析工支部として委員会を開催し、公正取引の各種情報を提供した。特に、医療機器販売にかかるコンプライアンス事例の紹介と法令順守の徹底を繰り返し会員企業に周知した。（6 回）
- ・JACLaS 展示会ブース出展（10 月）、質疑応答・資料配布を実施。
- ・分析工支部主催規約勉強会を開催（2 月）、申込 360 名。近年の医療関係の不祥事、公正競争規約の嚴重警告・公表事案の説明など、分析工委員から、医療機器メーカーにとって身近な話題の貸出し、飲食ルールなどの解説を実施した。嚴重警告が頻発しており各社に公正取引順守を依頼した。
- ・規約インストラクター向け勉強会(上記の分析工支部主催規約勉強会)を 2 月に実施（規約インストラクター約 300 名参加）。
- ・公取協本部が開催する新インストラクター養成講座への積極参加呼びかけ。公取協本部主催の規約インストラクター認定試験を 1 回実施した(12 月)。

## 9. 広報委員会

JAIMA の認知度／知名度向上および会員サービス向上を目的として、JAIMA の各委員会や事務局と連携し、(1) JAIMA オフィシャルサイトによる広報活動、(2) 会員向けメールマガジン「JAIMA 通信」の発信、(3) 「JAIMA Season」の定期発行、(4) JAIMA 情報の外部発信、(5) 国内外メディア対応等を通じて、JAIMA および JASIS 情報の外部発信を実施した。

### (1) JAIMA オフィシャルサイトによる広報活動実施

- ① 会員向けおよび対外向けにニュース・イベントなどのトピックスを 42 件（和英合計）掲載。
- ② JAIMA が行うセミナー情報などを WEB・メルマガを通じて会員向けに発信

### (2) 会員向けメールマガジン「JAIMA 通信」発信

- ① 2015 年 7 月 2 日創刊、月刊発行を継続中。（2025 年度末で通算 127 号）
- ② 法規制の動向、各種セミナー開催情報等や JAIMA の取組みを会員に継続的に情報提供

### (3) 「JAIMA Season」の定期刊行

- ① 定期刊行（四半期 1 回）により、工業会の内外のステークホルダーに対して適切な情報を発信
- ② 特別企画「機器分析が支える、豊かな暮らしと産業のフロンティア」を 2018 年から連載。
  - ・ 各分析機器が活躍する事例を紹介するコンテンツで、生活に近い分野や産業発展における分析機器の役割に関する解説記事。JASIS トピックスセミナー講演者を中心に工業会内外の識者による執筆を調整。

### (4) JAIMA 情報の外部発信

- ① プレスリリース実績(当年度 4 月～3 月)： プレスリリース件数 15 件（前年 16 件）、メディア掲載数 769 件（前年 1,326 件）、広告換算金額 76,185K 円（前年 61,315K 円）。  
アジア向け、北米向け英語プレス 2 件を含む。  
\*メディア掲載数、広告換算金額はいずれも「@press（アットプレス）」調べ
- ② JASIS 広報事務局として、会部委託先・JASIS 委員会と連携し JASIS（幕張）にて記者会見を実施。（記者会見参加メディア数：14 媒体 24 名）（昨年 17 社 24 名）  
メディア来場：期間中合計 49 媒体 59 人（JASIS 2024 実績：37 媒体 62 人）
- ③ JAIMA 主催イベントや JASIS トピックスの発信タイミングを調整しながら、年間通じてメディア発信を実施。

### (5) 国内外メディア対応

国際委員会との連携により SNS（LinkedIn）のコンテンツ掲載を継続的に実施することで JAIMA の海外へのパフォーマンスを強化。25 年度 60 件（昨年度実績計 84 件）の投稿をサポートした。また、フォロワーは 785 名（昨年度 572 人）。

### (6) 『工業会案内』（和/英）

『工業会案内』和文版改訂完了。

## 10. 展示会委員会

JASIS の開催を通じ、JAIMA の国内外プレゼンスの向上、業界発展に貢献することを目的として、次の事業を実施しました。

### (1) JASIS 2025 開催

#### 1) 開催実績等

開催会期 2025 年 9 月 3 日（水）～9 月 5 日（金）幕張メッセ

2025 年 7 月～10 月 JASIS WebExpo<sup>®</sup>

目標値：来場者数（実展示＋JASIS WebExpo<sup>®</sup> 合計）：59,000 人

幕張メッセ	来場者数：24,000 人
WebExpo	来場者数：35,000 人

幕張：出展小間数：1,300 小間、出展社数：450 社(WebExpo 有料プラン 330 社)

新技術説明会テーマ数：330 テーマ 参加者数：12,000 人

幕張メッセ 来場者数：19,750 人（21,918 人/2024 年）

WebExpo 来場者数：29,525 人（31,169 人/2024 年）

出展小間数 1,287 小間（1,214 小間/2024 年）

出展社数 444 社（407 社/2024 年）

JASIS2025 では、あいにく後半天候にも恵まれませんでした。会場奥のスペース小間を拡大し、展示会場奥への来場者の導線を描き、JASIS 全体の活性化を促しました。コンセプトを『五感で感じる学び場』として、科学・分析機器業界に携わる方々の満足度をさらに高め、社会課題解決や最先端科学、分析機器業界発展の学び場を提供。また、刷新された WebExpo をさらに進化させ、出展社にとっても価値ある Website へ進化させ、リアルとバーチャル両輪にて価値あるオンラインの展示会への布石を打った。このための重点施策として、下記①～④を実行し、来場者ならびに認知増加に繋げました。

#### ①会場内のスペース小間を拡大し、中長期で JASIS の活性化・成長を目指す。

JASIS 2025 から会場奥のスペース小間の拡大に着手。会場入口付近での対面小間配置ルールを改定し、スペース小間位置（会場奥）へ誘導。（約 8 社がスペース小間位置へ移動）。来場者が JASIS 会場全体をくまなく移動しやすいように大通り（JASIS Avenue）を設置し、JASIS スクエアやフードコート、アンケートコーナーを含めて会場隅々まで活性化を図った。効果は顕著に表れ、カーペットを数年ぶりに敷いたことにより予想以上の効果が得られた。特に大通りからの JASIS Street（学協会、研究機関、スタートアップが展示）では昨年以上の賑わいを見せた。

#### ②社会課題の解決を意識した企画の実現

社会課題として特に注目される「カーボンニュートラル（先端技術）」、「循環経済・環境（汚染）」、「ライフサイエンス」、「LabDX」、「教育」を軸に、トピックスセミナーや JASIS コラボレーションを実施。これにより会場内の JASIS スクエアとの連携を図りながら、魅力的な企画の

開催し、新しい市場を含め、来場者への価値を示せた。これらの取り組みを通じて、社会課題の解決に貢献し、未来を示す科学技術の進歩に対する分析・計測の必要性をアピール。2026年は国内外での Key Person を更に招集し、オンリーワン展示会へ向けての中長期に施策を実施していく。

### ③さらに進化させた WebExpo へ

JASIS2024 にオフィシャルサイトと WebExpo を統合。その結果、アクセス数が 3 倍近くに増加したが 2025 年は 2024 年からさらに増加 (194,067 回/昨年 163,380 回)。今後は、オフィシャルサイトとの統合による利点をさらに追求し、出展社にとっても柔軟性を持ちながら、自社 PR の場として一層の進化を促す。また、SNS との連携強化も実施し、より多くの人々に情報を届けることを目指す。この取り組みにより、JASIS 全体の魅力や知名度向上を目指す。

### ④デジタルマーケティング強化

Web、E-Mail、動画、SNS など、あらゆるデジタル施策を駆使しながら、JAIMA や JASIS の活動を戦略的にアピール実施。特に、デジタルマーケティングの強化を図り、JAIMA 広報委員会との連携を強化し相乗効果を発揮した。これによりターゲットに対して効果的に情報を発信し、JAIMA や JASIS の知名度と魅力を一層高めることを目指した結果、参加媒体も 2024 年より微増し、媒体への掲載比率を数%向上させた。2026 年でもデジタルコンテンツの質と量を向上させ、ユーザーエンゲージメントを促進させ、より多くの人々に JASIS の魅力を伝える努力を続ける。

## (2) 「JASIS 2026」(第 15 回) の開催準備

2025 年 11 月より JASIS 2026 の開催準備を実施。

会期予定：2026 年 9 月 2 日 (水) ～4 日 (金)

### 1 1. 統計委員会

#### (1) 生産高、輸出高、輸入高統計データ

正会員および賛助会員を対象に四半期ごとの生産高、輸出高、輸入高統計データを調査し、統計委員会で四半期ごとの調査結果を分析し各社にフィードバックするとともに、結果を理事会に報告し、会報に掲載した。

(委員会開催日：2025 年 5 月 22 日、8 月 20 日、11 月 18 日、2026 年 2 月 26 日)

#### (2) 海外協力団体とのデータ交換及び配布

受注統計小委員会において以下の JAIMA-ALDA-EUROM II 合同の受注高四半期統計に参加。

①主な集計項目：ア) 世界 6 地域におけるラボ分析機器ビジネスの総受注額

イ) 世界 6 地域における対象機種種の受注金額および台数

②地域：北米、欧州、日本、中国、インド、その他の 6 地域

③13 機種：GC、GCMS、LC、LCMS、UV、AA、FT-IR、TOC、蛍光、ICP、ICP-MS、XRF (WDX)、XRF (EDX)、

参加企業：14 社

### 1 2. 委員会開催状況

委員会開催状況を別紙3、各委員会「正・副委員長、小委員会主査等名簿」を別紙4に示す。

#### IV. その他の事業活動概要（事務局等）

##### 1. 行政機関諸施策および他団体事業への協力

- (1) 経済産業省、厚生労働省関係の各種通知、公募情報、各種表彰制度募集、各種法規制関連情報等について、メール送信、会員向け Web 掲載、会報掲載により会員に周知。
- (2) 一般財団法人安全保障貿易情報センター（CISTEC）の出捐団体となっており、専務理事が安全保障輸出管理委員会委員として参加。
- (3) 日本工業標準調査会（JISC）の化学・環境技術専門委員会に臨時委員として職員を派遣。
- (4) 別紙5のとおり、他団体の JIS 等関係調査事業、ISO/IEC 関係委員会、理事会等に協力。

##### 2. 分析機器に関する生産性向上仕様等証明書発行

中小企業経営強化税制制度に協力し、分析機器に関する生産性向上仕様等証明書を審査、発行。

[2025年度証明書発行件数 237件]

##### 3. 中小企業省力化投資補助事業（カタログ注文型）にかかる審査・証明書発行

人手不足に悩む中小企業等が、その解消のために導入する省力化製品の導入事業等の経費の一部を国が補助する制度（中小企業省力化投資補助事業（カタログ注文型））の対象カテゴリとして「自動分析計測機器」が承認され、審査担当工業会として製品の審査、中小企業庁補助金事務局への上申（7件）、国の承認を得たものについて証明書の発行業務（1件）を行った。

##### 4. 環境省「ESG リース促進事業」に分析機器を対象機器として追加

環境省補助金事業「脱炭素社会の構築に向けた ESG リース促進事業」対象製品となっている分析機器の機種登録を実施。[787 機種登録済]

##### 5. 「協力企業との適正取引の推進に向けた行動計画」の改定、フォローアップ調査実施

- ・「協力企業との適正取引の推進に向けた行動計画」の改定（2026.1月）
- ・「協力企業との適正取引の推進に向けた行動計画」のフォローアップ調査（2025.11月）

##### 6. 計量法の普及、計量行政施策の実施に対する協力

- (1) 国際法定計量機関（OIML）関係委員会への協力  
OIML 国内委員会である産業技術総合研究所国際計量研究連絡委員会に専務理事が参加。
- (2) 一般社団法人日本計量機器工業連合会国際法定計量調査研究委員会に専務理事が参加。
- (3) 経済産業省計量行政審議会計量標準部会に委員を派遣した。

##### 7. 分析機器に関する製品安全化事業（団体 PL 保険制度実施）

- (1) 海外を対象とする「海外団体 PL 保険制度」の参加会員 7社
- (2) 国内を対象とする「国内団体 PL 保険制度」の参加会員 3社
- (3) CGL 保険（企業総合賠償責任保険）の参加会員 13社

## 8. 生産高、輸出高、輸入高統計調査

会員を対象に生産高、輸出高、輸入高統計調査を実施し、四半期毎と年度毎に集計。年度ごとの集計結果は工業会 Web Site にて発表。

## 9. 分析機器工業の経営実態調査

会員の企業規模等実態調査を実施。

## 10. 後援・協賛名義等の使用承認

2025年度は、22件の展示会、セミナー、シンポジウム等に対し、当工業会の後援・協賛・共催名義等の使用を承認した。

以上

## 別紙1 会員の異動

### 1. 入会：4社

#### ○賛助会員4社

- 2025年4月1日 パンチ工業株式会社
- 2025年10月1日 積水化学工業株式会社
- 2025年10月1日 旭化成株式会社
- 2025年11月1日 QUER株式会社

### 2. 退会：5社

#### ○正会員2社

- 2025年4月30日 矢部川電気工業株式会社
- 2026年3月31日 キヤノンメディカルシステムズ株式会社

#### ○賛助会員3社

- 2025年9月30日 シエンタオミクロン株式会社
- 2025年12月31日 株式会社荏原製作所
- 2026年3月31日 ガーダントヘルスジャパン株式会社

### 3. 会社名変更：2社

#### ○正会員2社

- 2025年4月1日 株式会社日立ハイテクアナリシス／旧：株式会社日立ハイテクサイエンス
- 2025年9月1日 ビオリスメディカル株式会社／旧：東京貿易メディシス株式会社

## 別紙2 一般社団法人日本分析機器工業会 役員等名簿

2026年3月31日現在

会 長	足立 正之	株式会社堀場製作所 代表取締役社長
副 会 長	上田 輝久	株式会社島津製作所 代表取締役会長
副 会 長	大井 泉	日本電子株式会社 代表取締役社長兼 CEO
副 会 長	飯泉 謙	株式会社日立ハイテク 常務執行役員 CDO
専務理事	吉田 秀人	一般社団法人日本分析機器工業会
理 事	音川 真多郎	アジレント・テクノロジー株式会社 代表取締役社長
理 事	岸本 京子	京都電子工業株式会社 代表取締役社長
理 事	小林 久子	ベックマン・コールター株式会社 代表取締役
理 事	佐藤 賢治	日本分光株式会社 代表取締役社長
理 事	高島 一幸	東亜ディーケーケー株式会社 代表取締役社長
理 事	林 薫	日東精工アナリテック株式会社 代表取締役社長
理 事	宮島 孝行	株式会社リガク 取締役エグゼクティブオフィサー営業本部長
監 事	植田 成	公益社団法人日本臨床検査標準協議会 事務局長
監 事	長見 善博	ジーエルサイエンス株式会社 取締役社長
監 事	松本 哲哉	理研計器株式会社 代表取締役社長
相 談 役	栗原権右衛門	日本電子株式会社 相談役
相 談 役	中本 晃	株式会社島津製作所 相談役
相 談 役	堀場 厚	株式会社堀場製作所 代表取締役会長兼グループ CEO

## 別紙3 委員会開催状況

1. 企画戦略会議	8回
展示会企画戦略小委員会	11回
調達小委員会	1回
2. 技術委員会	12回
調査小委員会	25回
企画運営小委員会	12回
ライフサイエンス小委員会	12回
3. 環境委員会	12回
技術検討分科会	12回
(他団体合同委員会：カテゴリ8・9関連工業会連絡会)	4回)
4. 標準化委員会	12回
国際標準化対応委員会（計測分析データ共通フォーマット）	4回
国際標準化対応委員会（位置合わせ手順）	4回
質量測定分科会	3回
JIS K 0121 原子吸光分析通則改訂原案作成委員会	4回
5. 労務委員会	6回
6. 知的財産委員会	5回
実務・調査小委員会	10回
商標小委員会	3回
7. 国際委員会	12回
輸出管理小委員会	4回
8. 医療機器委員会	5回
医療機器運営委員会	5回
薬機法小委員会	6回
標準・規格小委員会	6回
安全・EMC規格小委員会	2回
IVD-MD 地位向上WG（(一社)日本臨床検査薬協会との会合）	4回
海外規制・IVD-MDアジアWG（同上）	6回
医療機器業公正取引協議会分析工支部 支部委員会	6回
医療機器国際小委員会	6回

動物医療機器3団体合同会議	6回
9. 広報委員会	12回
会報編纂小委員会	4回
JAIMA Web 小委員会/プレスリリース小委員会(本委員会との合同拡大会議として)	12回
10. 展示会委員会 (JASIS 委員会として)	12回
JASIS 委員会内組織として	
出展社小委員会	11回
主催者企画小委員会	12回
来場者小委員会	11回
Web 企画小委員会	12回
トピックスセミナーWG	12回
デジタル改革 WG	10回
両会長関連企画対応 WG	2回
11. 統計委員会	4回

以上

別紙 4

2025 年度 常設委員会 正・副委員長、小委員会主査等名簿

常設委員会名		氏 名 ( 所 属 )
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企画戦略会議</li> <li>・ 展示会企画戦略小委員会</li> <li>・ 調達小委員会</li> <li>・ JASIS グローバル化検討 WG</li> </ul>	正 副 副 主査 副主査 副主査 主査 主査	金山俊彦 (日本電子) 森本茂樹 (島津製作所) 中 庸行 (堀場製作所) 中 庸行 (堀場製作所) 森本茂樹 (島津製作所) 傍嶋 真 (堀場製作所) 西中文彦 (島津製作所) 林 奨 (堀場製作所)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 技術委員会</li> <li>・ 企画運営小委員会</li> <li>・ グローバル交流小委員会</li> <li>・ 技術普及調査小委員会</li> <li>・ 調査小委員会</li> <li>・ ライフサイエンス小委員会</li> </ul>	正 副 副 主査 主査 副主査 主査 副主査 主査 副主査 主査 副主査	杉沢寿志 (日本電子) 国広沖之 (島津製作所) 八谷宏光 (東亜ディーケーケー) 杉沢寿志 (日本電子) 村上 岳 (島津製作所) 濱上郁子 (堀場製作所) 杉沢寿志 (日本電子) 赤尾賢一 (日本分光) 上野楠夫 (堀場製作所) 粉川良平 (島津製作所) 神田浩幸 (リガク) 野口慎太郎 (堀場製作所)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境委員会</li> <li>・ 技術検討分科会</li> </ul>	正 副 副 主査	寺倉生剛 (島津製作所) 三枝宏彰 (シスメックス) 長谷川史憲 (日本電子) 佐藤純也 (理研計器)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標準化委員会</li> </ul>	正 副	永田 淳 (島津製作所) 岩佐真行 (日立ハイテクアナリシス)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 労務委員会</li> </ul>	正 副 副	渡邊文平 (日本分光) 石川秀寿 (島津製作所) 大澤 暁 (リガク)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知的財産委員会</li> <li>・ 知的財産調査・実務小委員会</li> </ul>	正 副 副 主査	山西孝志 (日本分光) 久留真一 (シスメックス) 生沢誠幸 (日本電子) ⇒ 岸本雅之 (島津製作所) 橋本隆弘 (堀場製作所) ⇒ 石川正明 (日本分光)

・商標小委員会	主査	岡有香里（島津製作所）
・国際委員会	正 副 副 副	林 奨（堀場製作所） 遠藤政彦（アジレント・テクノロジー） 竹本幸利（島津製作所） 塩野宗一（日本電子）
・輸出管理小委員会	主査	原囿聡（島津製作所）
・医療機器委員会	正 副 副	折橋敏秀（日立ハイテク） 西村勲（日本電子） 諸岡直樹（島津製作所）
・薬事法小委員会	主査	西村裕之（サクラファインテックジャパン）
・標準・規格小委員会	主査	中山秀喜（シスメックス）
・安全・EMC小委員会	主査	山下敦史（アークレイ）
・医療機器業公正取引協議会分析工支部	正	丹治亘博（堀場製作所）
・医療機器国際小委員会	主査	関口幸児（HOYA）
・動物医療機器小委員会	主査	原 幸寛（リガク）
・IVD-MD 地位向上 WG	主査	永井剛成（日立ハイテク）
・SMBG 認証基準制定 WG	主査	福島孝士朗（アークレイ）
・耐用期間自主基準改定 WG	主査	西村裕之（サクラファインテックジャパン）
・広報委員会	正 副 副	伊藤裕基（日立ハイテク）⇒大嶽義浩（堀場製作所） 野口美香（島津製作所） 関英樹（アジレント・テクノロジー）
・会誌編纂小委員会	主査	渡邊康雄（理研計器）
・Web小委員会	主査	野口美香（島津製作所）
・プレスリリース小委員会	主査	大嶽義浩（堀場製作所）⇒関英樹（アジレント・テクノロジー）
・展示会委員会	正 副 副 副 副 副	傍嶋 真（堀場製作所） 大島恵美子（島津製作所） 伊藤祐基（日立ハイテク） 久保貞人（日本電子） 遠藤 聡（JSIA,ダルトン） 渡辺 徹（JSIA 佐藤真空）
(JASIS 委員会)		
・出展社小委員会	主査	久保貞人（日本電子）
・来場者小委員会	主査	渡辺 徹（JSIA 佐藤真空）
・主催者企画小委員会	主査	伊藤祐基（日立ハイテク）
・Web企画小委員会	主査	遠藤 聡（JSIA,ダルトン）
・トピックスセミナーWG	主査	大島恵美子（島津製作所）
・Web改革WG	主査	傍嶋 真（堀場製作所）
・統計委員会	正	須藤深雪（日立ハイテクアナリシス）
・受注統計小委員会	主査	竹本幸利（島津製作所）

## 別紙5 参加している他団体事業活動等

### 1. 他団体の J I S 等関係調査事業への協力

- |                                       |                   |
|---------------------------------------|-------------------|
| (1) 環境測定 J I S 総括委員会                  | (一社) 産業環境管理協会     |
| (2) プラスチック関係 JIS 委員会                  | 日本プラスチック工業連盟      |
| (3) 透析液濃度測定装置認証委員会                    | (一社) 日本血液浄化技術学会   |
| (4) 日本薬局方原案検討委員会 (理化学試験法、物性試験法、天秤 WG) | (独) 医薬品医療機器総合機構   |
| (5) 下水試験方法改訂調査専門委員会                   | (公) 日本下水道協会       |
| (6) 試薬協会規格委員会                         | (一社) 日本試薬協会       |
| (7) 産業標準作成委員会                         | (一財) 日本規格協会       |
| (8) 標準物質認証委員会                         | 国立研究開発法人産業技術総合研究所 |
| (9) 日本産業標準調査会化学・環境技術専門委員会             | 経済産業省             |
| (10) 計量行政審議会計量標準部会                    | 経済産業省             |

### 2. 他団体の ISO/IEC 関係委員会への協力

- |                             |                    |
|-----------------------------|--------------------|
| (1) ISO 関係委員会               |                    |
| ①TC45 (ゴムの化学試験方法)           | (一社) 日本ゴム工業会       |
| ②TC47 (化学)                  | (一社) 日本化学工業協会      |
| ③TC61 (プラスチック)              | 日本プラスチック工業連盟       |
| ④TC146 (大気質)                | (一社) 産業環境管理協会      |
| ④TC146 (室内大気測定)             | (一財) 建材試験センター      |
| ⑤TC147 (水質)                 | (一社) 産業環境管理協会      |
| ⑥TC210 (医療用具の品質管理と関連する一般事項) | (一社) 日本医療機器産業連合会   |
| ⑦TC212 (臨床検査と体外診断検査システム)    | (公社) 日本臨床検査標準協議会   |
| ⑧TC229 (ナノテクノロジー)           | (一財) 日本規格協会        |
| ⑨TC298 (レアアース)              | (一社) 新金属協会         |
| ⑩TC345・PC348 (重要鉱物)         | (独) エネルギー・金属鉱物資源機構 |
| (2) I E C 関係委員会             |                    |
| ①TC111 (RoHS 関連試験法の規格化)     | (一社) 電子情報技術産業協会    |

### 3. 他団体の理事会等への協力

- (1) (一財) 安全保障貿易情報センター (評議員会、部会、専門委員会)
- (2) (一社) 日本機械工業連合会 (理事会、参与会、技術開発委員会)
- (3) 国際計量研究連絡委員会 (OIML 国内委員会) (委員会)
- (4) (一社) 日本計量機器工業連合会国際法定計量調査研究委員会 (委員会)
- (5) (公社) 日本分析化学会 (理事会)
- (6) (公社) 日本臨床検査標準協議会 (理事会、委員会)
- (7) (一社) 日本医療機器産業連合会 (理事会、委員会)
- (8) (公財) 医療機器センター (評議員会)

- (9) 医療機器業公正取引協議会 (理事会、委員会)
- (10) (一社) 日本臨床検査薬協会 (委員会)
- (11) 日本学術振興会 R053 設計・計測・解析の協調プラットフォーム委員会 (委員会)